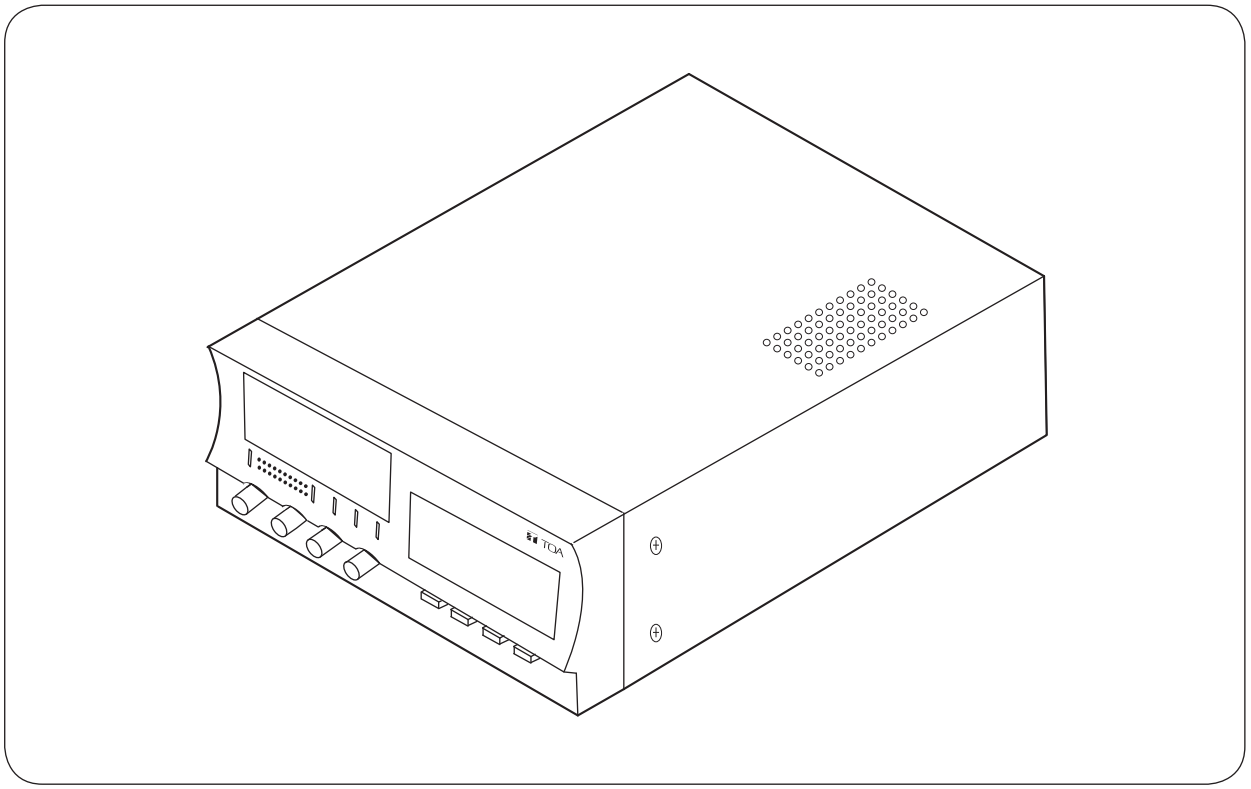
TOA

# 取扱説明書

# インターネット CM・BGM プレーヤー
# NA-2100B



このたびは、TOA インターネット CM・BGM プレーヤーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA 株式会社

# 目　次


安全上のご注意 ..... 4

概　要 ..... 7

特　長 ..... 7

使用上のご注意 ..... 7

お使いになる方に ..... 8
- STB の位置づけ ..... 8
- ネットワーク設定とスタンドアロン設定 ..... 8

各部の名称とはたらき ..... 9
- 前面 ..... 9
- 後面 ..... 10

外部機器の接続と使用例 ..... 11
- STB の設置と電源の接続 ..... 11
- AC アダプターの接続 ..... 12
- 電話回線の接続 ..... 13
- 外部演奏機器の接続 ..... 13
- 外部アンプなどの接続 ..... 13
- 制御端子の接続方法 ..... 14
- アースの接続 ..... 16

機能と操作について ..... 17
- 操作機能一覧（ネットワーク設定とスタンドアロン設定） ..... 17
- 操作にあたって ..... 18

操作のしかた ..... 19
- 電源を入れるには ..... 19
- メイン画面について ..... 19
- 再起動をするには ..... 20
- シャットダウンをするには ..... 21
- 時刻を調整するには ..... 22
- CF カードを交換するには ..... 23
- リクエストチェックをするには ..... 26
- 音量を調節するには ..... 27
- 音量相対設定をするには ..... 33
- ダイレクト再生をするには ..... 34
- ダイレクトスケジュール再生をするには ..... 35
- セレクトチャンネルをするには ..... 36
- エラー発生時の対処方法 ..... 37
- 設定情報を確認するには ..... 39
- 通信状態を確認するには ..... 40

設定を変更するには ..... 41

故障かな？と思ったら ..... 44
STB の動作に問題があった場合… ..... 44
STB が通信できないときは… ..... 45

エラーコード一覧表 ..... 46

サンプル BGM の再生 ..... 48

仕　様 ..... 49
付属品 ..... 49

# 安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

## 表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

## 図記号について

| 行為を禁止する記号 | | | 行為を強制する記号 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 分解禁止 | 禁　止 | 接触禁止 | 強　制 | 電源プラグを抜け |

**⚠警告**　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

## 設置・据付をするとき

### 水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

### 指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

### 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

### 不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

### 屋外に設置しない

本機は、屋内専用品です。
屋外に設置すると、部品の劣化により、機器が落下して、けがの原因となります。
また、雨などがかかると、感電の原因となります。

禁　止

## ⚠警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

# 使用するとき

### 万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

### 内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

### 液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

### 内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

### 雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

## ⚠注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

# 設置・据付をするとき

### ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

### 電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

### 移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

## ⚠注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 設置・据付をするとき

### 通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、通風口にほこりがたまらないよう定期的に掃除をしてください。

禁　止

### 湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

## 使用するとき

### 上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

### 電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

強　制

### AC アダプターは指定のものを使用する

指定以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。

強　制

### 定期的に内部の掃除をする

内部の掃除については、販売店にご相談ください。
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。

強　制

### 電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

### お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

# 概　要

本機は、業務用の BGM プレーヤーです。さらにセットトップボックス（STB）として、情報発信や販促ツールとしてもお使いいただけます。
業務上の運用に耐えられるよう、耐久性、保守性に優れた設計になっています。
また、日常の操作は簡単にできるように設計されています。

※ STB とは：本書では、音楽提供会社からインターネットを経由するなどして配信された音楽コンテンツをスケジュールどおりに再生する装置として説明しています。

※ 以降、本機を「STB」として記載しています。

# 特　長

- 耐久性に優れた業務用の安心設計
  STB は、業務用の BGM プレーヤーです。耐久性を考慮して設計していますので、長時間安心してお使いいただけます。
- インターネットに接続
  インターネットに接続して、演奏スケジュールや BGM のコンテンツをダウンロードします。
- CD を交換する手間が不要
  インターネットに接続してコンテンツをダウンロードして、自動演奏します。従来のように送られてきた CD を交換する手間がかかりません。
- デジタルならではの優れた音質
  コンテンツは不揮発性メモリに記憶されますので劣化することなくクリアーな音楽を演奏します。
- オートゲインコントロール（AGC）機能内蔵
  録音済み音源のレベルが大きい場合、その音を下げる AGC 機能を内蔵しています。AGC 機能は DIP スイッチにより ON/OFF の設定ができます。
- CF カードにはサンプル音源として 8 ジャンル、各 10 曲をプリインストール
  ダイレクト再生機能により、初期設定なしで使用することができます。

# 使用上のご注意

- CF カードは抜かないでください。特に通電中に CF カードを抜いてしまった場合は、CF カードが破損して STB 自体が動作を停止し、以降 STB がまったく起動できなくなる可能性があります。
- 前面カバーの取り外しや、DIP スイッチの設定の際は、必ず電源を切った状態で行ってください。
  誤動作や故障の原因になります。
- DIP スイッチを強い力で押さないでください。スイッチ部が破損するおそれがあります。
- STB は夜間に通信をします。STB および STB に接続する交換機器（ISDN ルーター、電話交換機など）は 24 時間電源を切らないでください。
- STB の停電補償機能は、内蔵のバックアップ電池により、時計部やメモリー部への電源供給を継続するタイプです。この電池は充電式ですので、初めて使用する場合や、長く停電していた後などは、24 時間以上の連続通電がないと、充電不足のため停電補償期間が短くなります。
- AC アダプターの点検と交換について
  AC アダプターを安心してご使用いただくためには、点検、交換が必要です。通常の使用状態で 24 時間連続で使用すると、約 5 年が交換の目安となります。
  上記期間はあくまでも目安です。設置環境と使用状況によっては、これより短期間で寿命となる場合もあります。

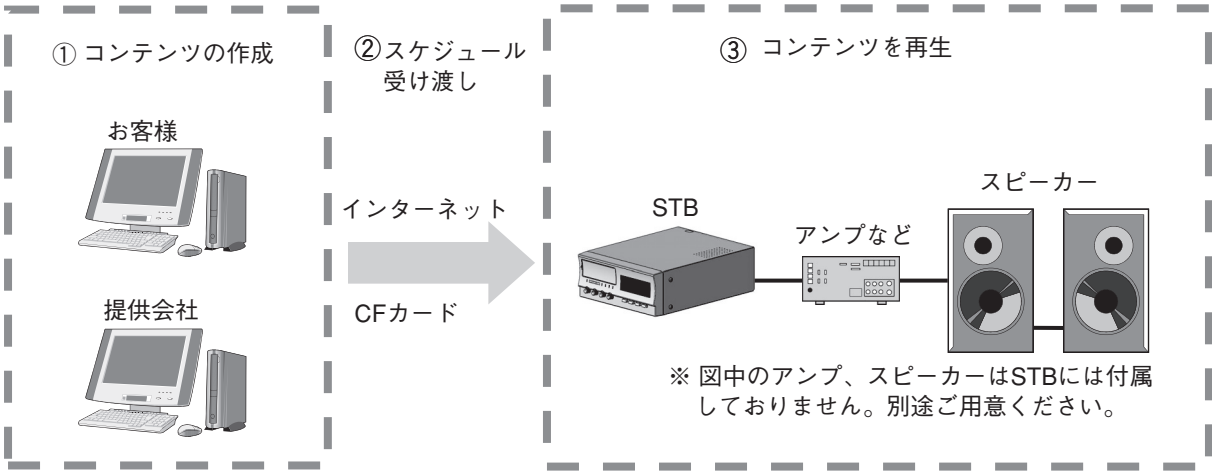
# お使いになる方に

## ■ STB の位置づけ

STB は、音楽を配信・制御・再生するシステムです。
※以下、音楽を“コンテンツ”と呼びます。
そのおおまかな仕組みは次のとおりです。

① コンテンツ提供会社またはお客様がコンテンツを作成。
② お客様が再生スケジュールを作成し、STB にインターネットまたは CF カードを介して送信。
③ STB がスケジュールどおりにコンテンツを再生。

STB は上記③、つまりコンテンツの再生を行います。
通常の運用において、STB は自動でスケジュールどおりにコンテンツを再生するので、基本的にはキー操作などを行う必要はありませんが、より便利な機能を使うためには、いくつかの操作をしていただく必要があります。
具体的な機能と操作手順については、P.17「■ 操作機能一覧（ネットワーク設定とスタンドアロン設定）」をご確認ください。



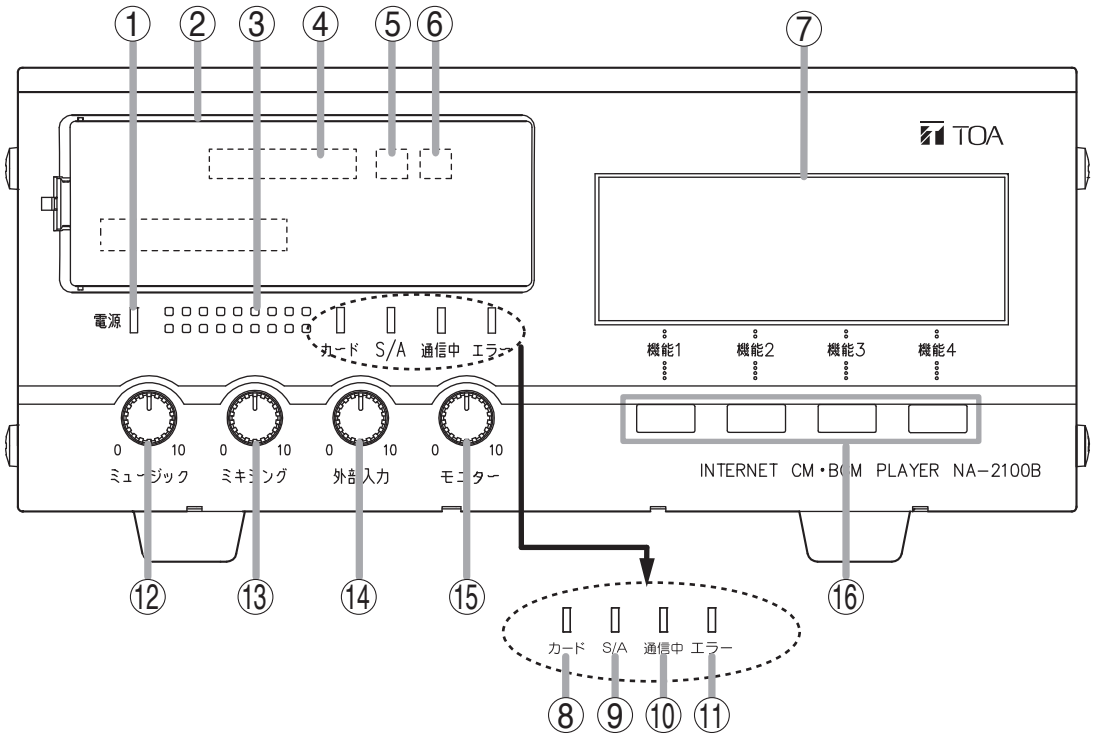

## ■ ネットワーク設定とスタンドアロン設定

STB は、ネットワーク設定*1 とスタンドアロン設定*2 のどちらでもお使いになることができます。
それぞれの設定で有効な機能と操作については、P.17「■ 操作機能一覧（ネットワーク設定とスタンドアロン設定）」をご覧ください。

*1 ネットワークに接続する利用形態の設定
*2 ネットワークには接続しない利用形態の設定

# 各部の名称とはたらき

［前面］




**1. 電源ランプ**
電源スイッチが「入」の状態でランプが点灯します。

**2. フロントカバー**
カバーを開け、CF カードを取出／挿入します。

**ご注意**

CF カード交換時の注意
- 必ず「交換の設定」を行ってから交換してください。
  ※ 設定の手順は、P.23「■ CF カードを交換するには」を参照してください。
- 挿入は必ずまっすぐ奥まで差込んでください。半差しの状態で動作させると、データを破損するおそれがあります。
- 取出は、右側の黒いボタンを押します。

**3. モニタースピーカー**
STB の出力のための確認用スピーカーです。モニターボリュームで音量を調節します。

**4. DIP スイッチ**
※ P.11「[DIP スイッチの設定と機能一覧]」を参照してください。

**5. リセットスイッチ**
STB が操作を受け付けなくなった際に使用します。データが破損するおそれがあるため通常は押さないでください。

**6. 3 ピン端子**
保守設定を行う場合に、専用アダプターと RS-232C ケーブル（クロス）で PC と接続します。
※ 専用アダプターと RS-232C ケーブルは付属されていません。別途ご用意ください。（専用アダプターについては、販売店にお問い合わせください）。

**7. LCD 表示パネル**
20 文字×4 行の表示をします。
表示内容の詳細については P.18「■ 操作にあたって」を参照してください。

**8. カードランプ**
CF カードへのデータ書込み中にランプが点滅します。

**9.** S/A ランプ
スタンドアロンモードで使用する際に点灯します。

**10.** 通信中ランプ
インターネット通信中にランプが点滅します。

**11. エラーランプ**
通信時や再生などについてエラーが発生した場合、ランプが点滅します。

**12. ミュージックボリュームつまみ**
STB が出力する音量を調節します。

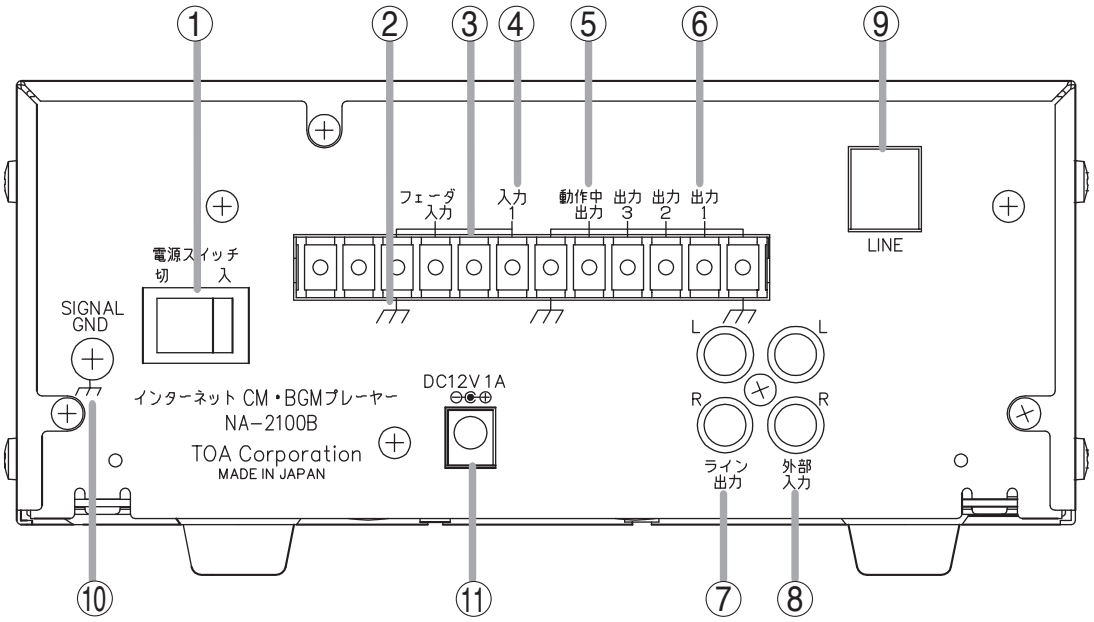
**13. ミキシングボリュームつまみ**
STB の出力や外部入力について、出力の割合を調節します。

**14. 外部入力ボリュームつまみ**
外部入力の音量を調節します。

**15. モニターボリュームつまみ**
モニタースピーカーの音量を調節します。

**16. 操作キー**
「機能 1」から「機能 4」まで 4 つのボタンにて、操作を行います。操作方法は P.18「■ 操作にあたって」を参照してください。

［後面］




**1. 電源スイッチ**
電源の入切を行います。

**2. 外部機器制御用グランド端子**
制御用グランドを接続します。

**3. フェーダ入力端子**
外部からミュートをする際に、その機器を接続します。

**4. 入力 1 端子**
入力 1 端子はスタンドアロン設定時に有効です。
外部機器から信号を入力し STB を制御します。

**5. 動作中出力端子**
再生中に信号を出力します。

**6. 出力 1、2、3 端子**
制御信号を出力します。

**7. ライン出力端子**
ミキサーまたは外部アンプなどを接続します。

**8. 外部入力端子**
CD プレーヤー、チューナーなどの外部演奏機器を接続します。

**9. ネットワーク（モデム）インターフェース**
LINE 端子：電話回線接続端子
電話回線に接続します。

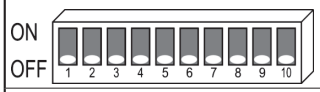
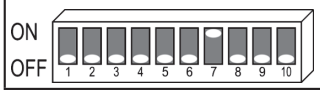
**10. GND**
グランド端子です。アースに接続します。

**11. 電源入力**
付属の AC アダプターを接続します。

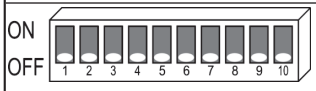
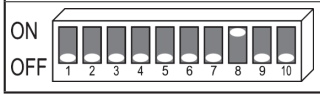
［DIP スイッチの設定と機能一覧］

フロントパネルでネットワークのタイプとオートゲインコントロール（AGC) 機能 の ON/OFF を設定します。

ネットワークのタイプ・・・・・・・・・・・・・DIP スイッチ「7」を設定します。

| スイッチの設定 | | 機能 |
|---|---|---|
|  | 7 を OFF<br>※初期設定値 | ネットワーク型<br>ネットワーク接続するタイプとして設定 |
|  | 7 を ON | スタンドアロン型<br>ネットワーク接続しないタイプとして設定 |

オートゲインコントロール（AGC）機能　・・・DIP スイッチ「8」を設定します。

| スイッチの設定 | | 機能 |
|---|---|---|
|  | 8 を OFF<br>※初期設定値 | AGC 機能 OFF<br>設定音楽の各出力レベルどおりに再生 |
|  | 8 を ON | AGC 機能 ON<br>設定音楽のレベル差を軽減して再生 |

ご注意

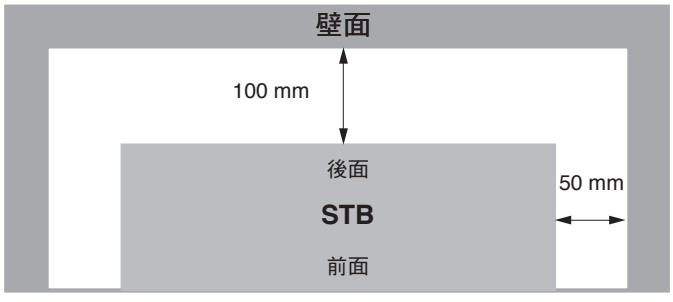
- 上記の説明にないスイッチは設定を変更しないでください。
- DIP スイッチの設定は、電源を切った状態で行ってください。

# 外部機器の接続と使用例

## ■ STB の設置と電源の接続

### ● STB の設置

- STB の周辺は、下図のように空間をあけてください。
  後面から壁面まで　100 mm 以上
  側面から壁面まで　 50 mm 以上
- 直射日光を避け、風通しの良い場所に設置してください。
- 設置作業（各種機器の接続も含む）は、必ず電源を切った状態で行ってください。




※ 図は真上から見たSTBと壁面の位置関係を表したものです。

**⚠警告**
液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

**⚠注意**
上に重いものを置かない
STB のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

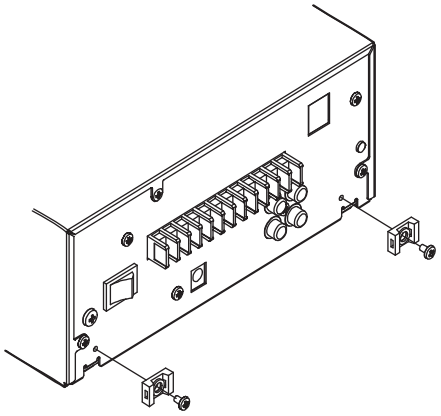
### ● 電源の接続

- 電源スイッチが「切」の状態であることを確認したうえで、後面の電源入力に、同梱の AC アダプターを接続します。
- 電源は AC100 V、50/60 Hz に接続してください。

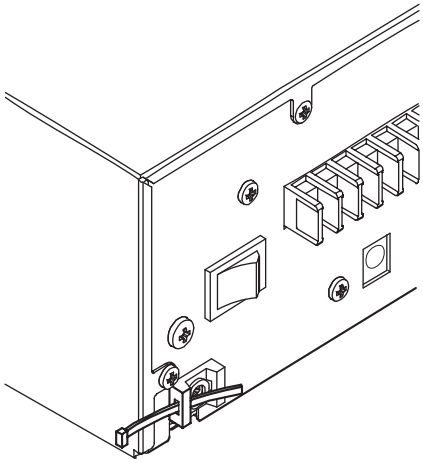
## ■ AC アダプターの接続

AC アダプターの脱落防止のためにコードを STB に固定してください。

**1** **付属のコード抜け止めを STB 裏側のねじ穴 1 カ所または 2 カ所に付属の M3 ねじで固定します。**



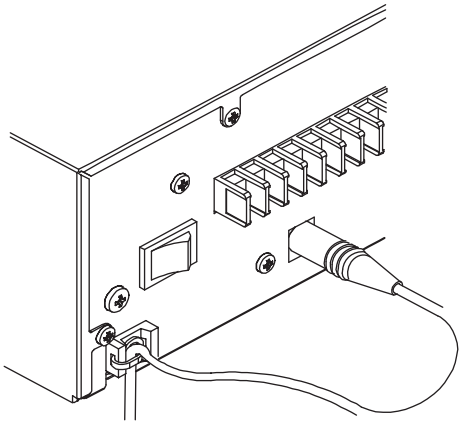
**2** **コード抜け止めの角穴に付属の結束タイを通します。**



**3** **結束タイでコードを図のように結束します。**

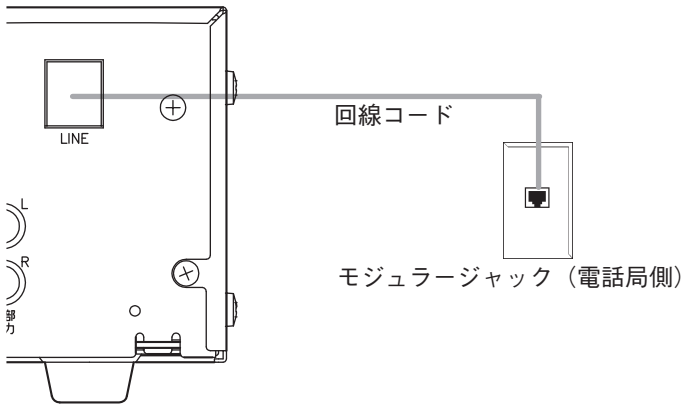
**ご注意**

この時コードを強く引っ張ると、破損の恐れがありますので絶対に行わないで下さい。



# ■ 電話回線の接続

後面の LINE 端子に回線コードを接続します。

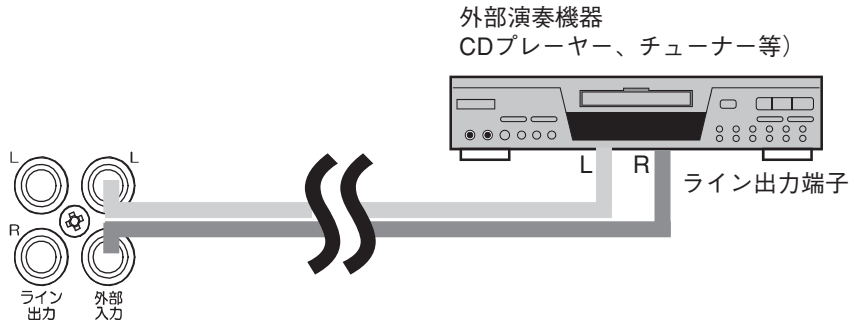



ご注意

分配器を介して STB と電話機や FAX などの外部機器を接続した場合、ひとつの回線を共用する形になるため、STB または電話機や FAX などが通信を行っている間、ほかの機器は通信できません。

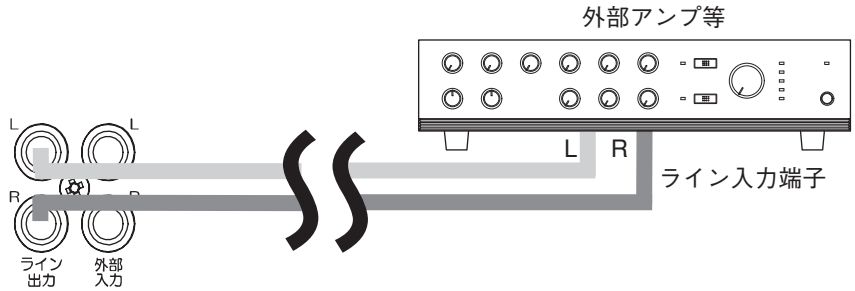
# ■ 外部演奏機器の接続

- CD プレーヤーやチューナーといった外部演奏機器を接続し、STB が再生するスケジュールとは別に任意の音楽などを再生することができます。
- 外部演奏機器のライン出力を、後面の外部入力端子に接続します。
- 外部演奏機器がモノラルの場合は、外部入力端子の「R」側に接続します。
- STB の入力端子は、ピンジャックです。
  - ・外部入力の音量は、前面の外部入力ボリュームで調節します。
  - ・STB が再生する音楽等とのバランスを、ミキシングボリュームで調節します。
    （ミキシングの詳細については、P.28「● ミキシング」を参照してください。）




# ■ 外部アンプなどの接続

- STB からの出力を、外部アンプやミキサーなど、別の機器に入力することができます。
- 後面のライン出力を、外部アンプなどのライン入力端子に接続します。
- 外部アンプがモノラルの場合は、ライン出力端子の「R」側に接続します。
- STB の出力端子は、ピンジャックです。
  - ・出力レベルは、前面のミュージックボリュームで調節します。

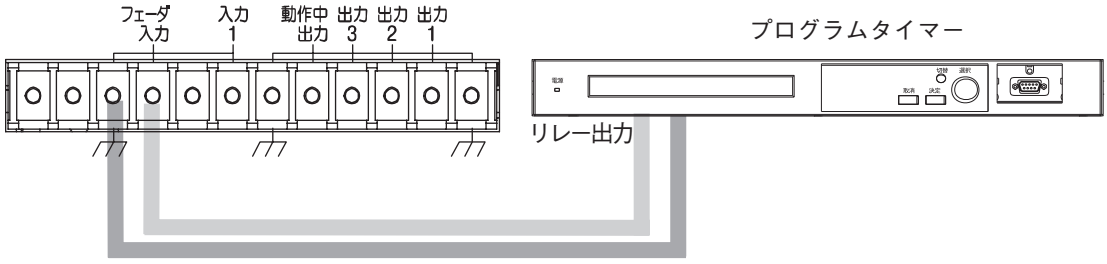


# ■ 制御端子の接続方法

## ● フェーダ入力端子

- STB で再生する音楽、または外部入力機器の再生に対し、外部からミュートをします。
- フェーダ入力端子と外部機器制御用グランド端子が短絡（外部接続機器によるリレー接続など）されるとミュート状態になり、開放（外部機器によるリレー接続解除）されるとミュートが解除します。
- プログラムタイマーを接続すると、任意の時刻にミュートをすることができます。
  - ・接続する機器には、オープンコレクター信号出力（あるいはリレー出力）を備えている必要があります。
  - ・STB 側は、フェーダ入力端子と外部機器制御用グランド端子を接続します。
  - ・ドライバーで端子のねじを緩めて配線を挟み、ねじを締めて接続します。

［接続例］



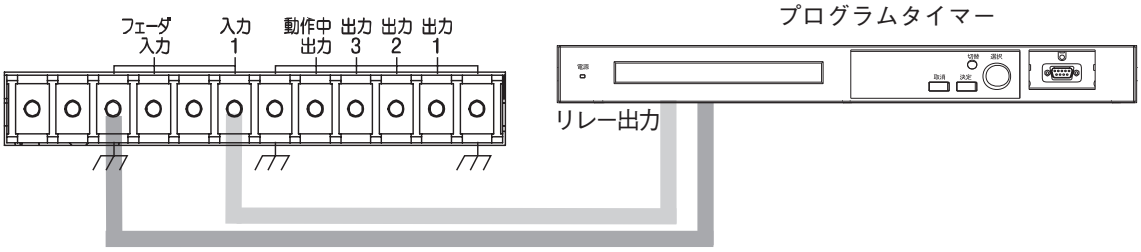

## ● 入力 1 端子

ご注意

スタンドアロン設定時のみ有効です。

- 外部からスケジュール再生の動作／停止を制御します。
- 入力 1 端子と外部機器制御用グランド端子が短絡（外部接続機器によるリレー接続など）されるとスケジュールを停止し、開放（外部機器によるリレー接続解除）されると再開します。
- STB がスタンドアロン設定で動作している場合のみ有効です。
  - ・接続する機器には、オープンコレクター信号出力（あるいはリレー出力）を備えている必要があります。
  - ・接続には、入力 1 端子と外部機器制御用グランド端子を接続します。
  - ・ドライバーで端子のねじを緩めて配線を挟み、ねじを締めて接続します。

［接続例］

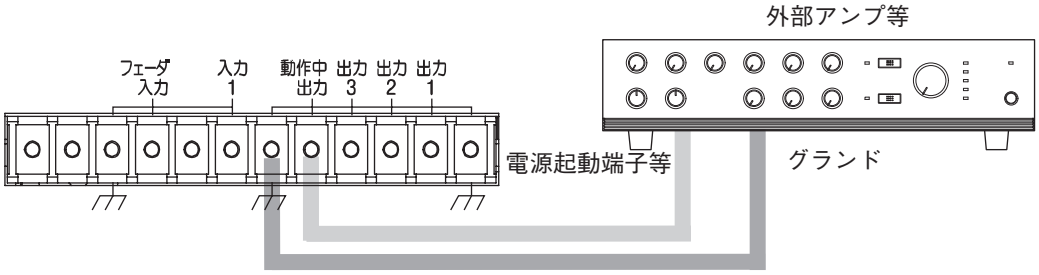


## ● 動作中出力端子

STB がコンテンツ再生中であることを、信号を出力して外部機器に対して知らせます。

- STB 側は、動作中出力端子と外部機器制御用グランド端子を接続します。
- ドライバーで端子のねじを緩めて配線を挟み、ねじを締めて接続します。
- 動作中出力端子はオープンコレクター出力で、最大定格は DC25 V/30 mA です。

［接続例］

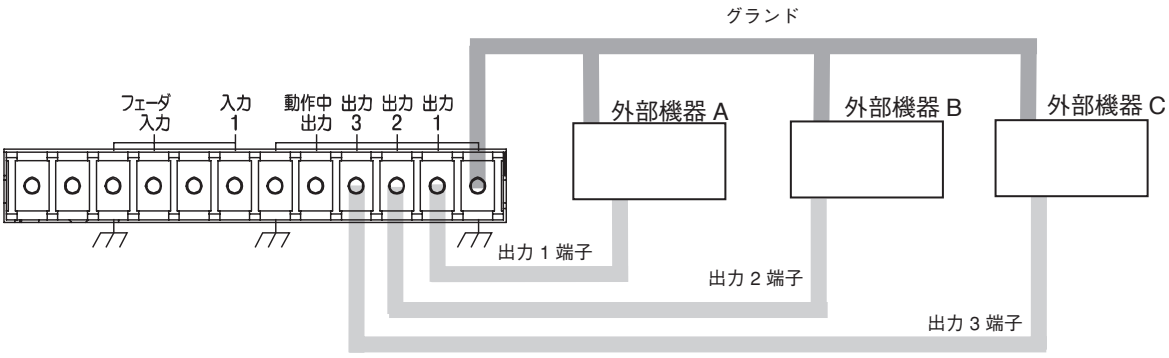



## ● 出力 1、2、3 端子

- STB から外部機器へ制御信号を出力します。
- 作成されたスケジュールに従って、3 つの端子からそれぞれ独立して信号を出力します。

・STB 側は、出力 1、2、3 端子と外部機器制御用グランド端子を接続します。
・ドライバーで端子のねじを緩めて配線を挟み、ねじを締めて接続します。
・スケジュールの設定に関しては、運用管理者にお問い合わせください。
・出力端子はオープンコレクター出力で、最大定格は各 DC25 V/30 mA です。

［接続例］



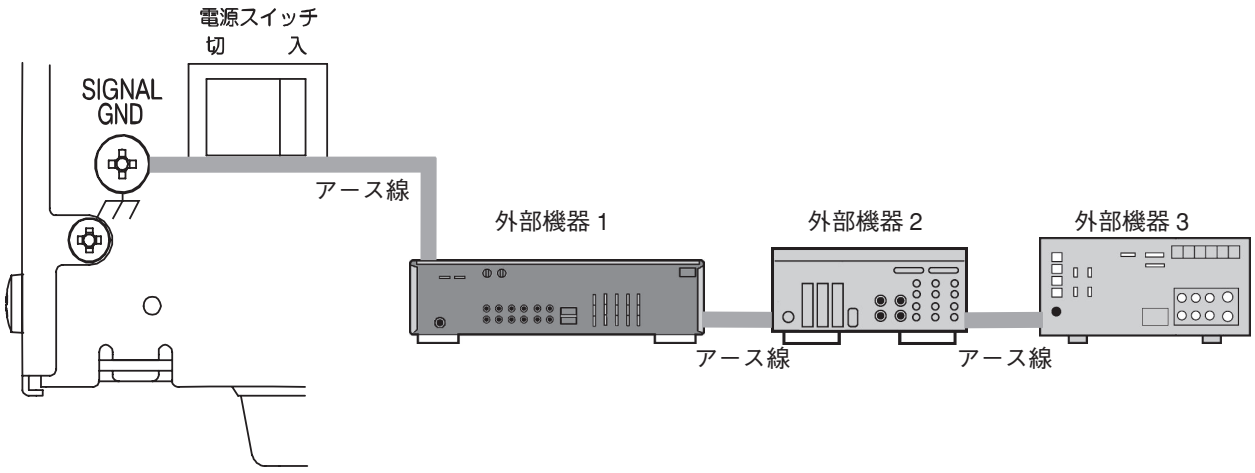

・外部機器 A に出力 1 端子と外部機器制御用グランド端子を接続
・外部機器 B に出力 2 端子と外部機器制御用グランド端子を接続
・外部機器 C に出力 3 端子と外部機器制御用グランド端子を接続

# ■ アースの接続

- STB を複数台接続して運用する場合や、外部アンプなどの外部機器と組み合わせて運用する場合は、各機器間の電位差をなくすため、シグナルアースを接続します。
- 後面のグランド端子と外部機器のグランド端子を接続します。

・接続に使用するアース線は、できるだけ太く短くします。
・外部機器のグランド端子に関する詳細は各機器に添付されている取扱説明書を参照してください。
（一般的にグランド端子は「アース」「GND」「 」「 」と表示されます）

［接続例］



# 機能と操作について

## ■ 操作機能一覧（ネットワーク設定とスタンドアロン設定）

STB は操作キー、ボリュームつまみ、スイッチを用いて下記に示す操作を行うことができます。
なお、操作機能によっては事前に運用管理者による設定が必要な項目があります。設定については運用管理者にご確認ください。

**基本操作**

| 機能 | 概要 | ページ | ネットワーク | スタンドアロン |
|---|---|---|---|---|
| 再起動 | 設定の変更を行うため保守モードを立ち上げるときなどに STB を再起動します。 | P.20 | ○ | ○ |
| シャットダウン | 設置場所を変える場合などに、STB の電源を切るためシャットダウンします。 | P.21 | ○ | ○ |
| 時刻調整 | 時刻の設定／変更を行います。 | P.22 | ○ | ○ |
| CF カード交換 | CF カードを交換する設定を行います。 | P.23 | ○ | ○ |
| リクエストチェック | STB に送信されたリクエストを受信します。 | P.26 | ○ | × |
| 音量調節 | 各音量を調節します。 | P.27 | ○ | ○ |
| 音量相対設定 | 音量のバランスを調節します。 | P.33 | ○ | ○ |

**再生操作**

| 機能 | 概要 | ページ | ネットワーク | スタンドアロン |
|---|---|---|---|---|
| ダイレクト再生 | 登録したコンテンツを手動で再生します。 | P.34 | ○ | ○ |
| ダイレクトスケジュール再生 | 登録したスケジュールを手動で再生します。<br>*1 STB がネットワーク設定時 | P.35 | ○ | × |
| セレクトチャンネル | 登録したスケジュールを手動で再生します。<br>*2 STB がスタンドアロン設定時 | P.36 | × | ○ |

**保守操作**

| 機能 | 概要 | ページ | ネットワーク | スタンドアロン |
|---|---|---|---|---|
| エラー発生時の対処方法 | 発生したエラーの内容を確認し、対処します。 | P.37 | ○ | ○ |
| 設定情報確認 | STB の設定情報を確認します。 | P.39 | ○ | ○ |
| 通信状態確認 | STB の通信状態を確認します。 | P.40 | ○ | × |
| 設定変更 | STB の設定を変更します。 | P.41 | ○ | ○ |

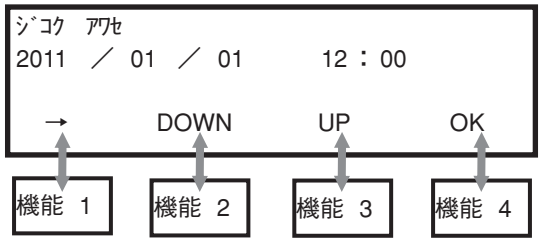
*1 ネットワーク設定
ネットワークに接続する利用形態の設定です。運用管理者によりネットワーク経由で更新されたスケジュールが再生されます。スケジュールは優先度や運用期間により切り替わります。

*2 スタンドアロン設定
ネットワークには接続しない利用形態の設定です。あらかじめ登録されているスケジュールを STB 側の操作で選択し、再生を行います。スケジュールは選択したものを再生し続けます

# ■ 操作にあたって

- 操作は STB 前面の［機能 1］～［機能 4］操作キーにて行います。（音量の調節を除く）
- 選択された項目は、点滅して表示されます。
- キーを押してから何も操作を行わない場合、約 1 分でメイン画面に戻ります。（再起動画面、保守画面からはメイン画面に戻りません）
- 各キーの機能は、LCD 画面下段に表示されます。（画面によっては、「F1」、「F2」……という表示になります。「F1」＝［機能 1］、「F2」＝［機能 2］……に該当します）
- STB の各部名称につきましては、P.9「各部の名称とはたらき」を参照してください。

［例：時刻調整の画面］




機能 1：「→」：項目を選択します
機能 2：「DOWN」：選択した数値を下げます
機能 3：「UP」：選択した数値を上げます
機能 4：「OK」：選択した項目または設定を実行します

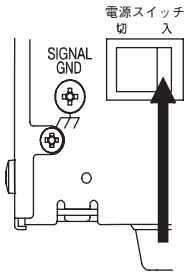
「操作のしかた」の記載について

- ［機能 1 ～ 4］後のカッコ内に、各場面での機能を記載しています。
- 各場面にて、色付けされているキーを操作します。
- ひとつの場面に複数の色付けされたキーが記載されている場合でも、指示のある場合以外には同時に押しません。
- 記載されているコンテンツ名、スケジュール名などはすべて例としての名称です。実際の STB に同様のものは登録されていません。

# 操作のしかた

## ■ 電源を入れるには

**1** STB 後面の電源スイッチを「入」に倒します。




**2** 電源が入ると、STB 前面の電源ランプが点灯します。

**3** 起動処理を行い、その後にメイン画面が表示されます。メイン画面の内容については、次の項目をご確認ください。また、基本的な再生動作に関しては、スケジュールの設定によって自動で行われますので、STB での操作は必要ありません。

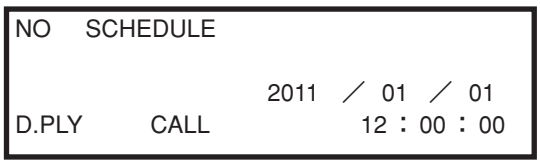
## ■ メイン画面について

［メイン画面共通の表示］

右側には現在の日付、その下段には現在の時刻が表示されます。最下段には左から「ダイレクト再生」を示す「D.PLY」、サーバーと通信を行う「CALL」が表示されます。最下段に表示される項目は、それぞれの位置の機能キーに対応します。

メイン画面は以下の 3 種類となります。

・スケジュールがない場面の待機画面




画面上段に、STB 内にスケジュールがないことを示す「NO SCHEDULE」が表示されます。

・スケジュールがある場面の待機画面

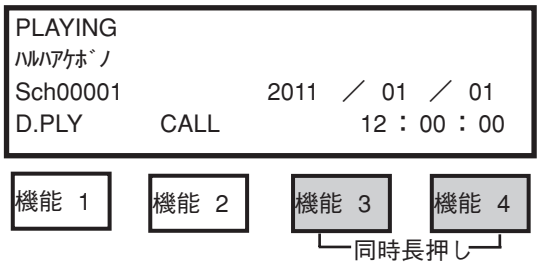
スケジュール期間内の場合は、画面上段にコンテンツ再生の待機中であることを示す「WAITING」が表示されます。左側 3 段目には、現在待機中のスケジュール名が表示されます。
スケジュール期間外の場合は、画面上段に次のスケジュール期間まで待機中であることを示す「WAIT SCHEDULE」が表示されます。

・再生中の画面

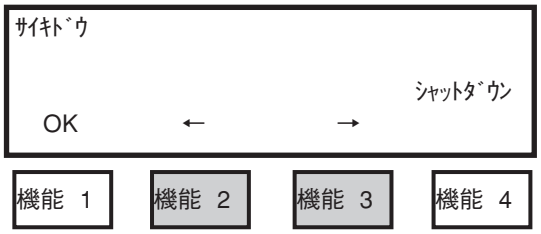
画面上段に再生中であることを示す「PLAYING」が表示されます。その下には、現在再生中の BGM または CM の名前が表示されます。
ダイレクトプレーの場合は「PLAYING（DIRECT）」、プレーコマンドの場合は「PLAYING（COMMAND）」が上段に表示されます。

# ■ 再起動をするには

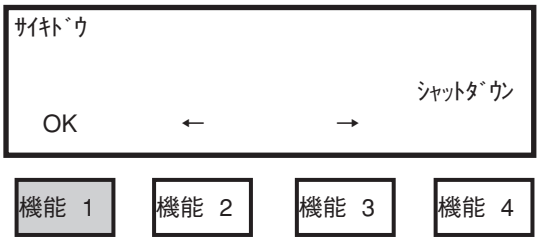
**1** メイン画面が表示されている状態で、［機能 3］と［機能 4］を同時に 2 秒以上押し続けます。（再生中のコンテンツは停止します。）




**2** 「機能 2」（←）、「機能 3（→）を押して、「サイキドウ」を選択します。
選択された側が点滅します。

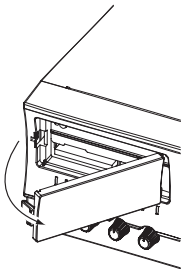



**3** 「機能 1」（OK）を押して、実行します。

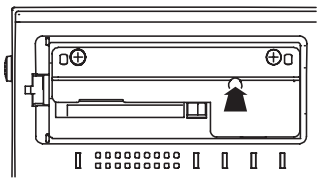



上記の方法で再起動がかからない場合は以下の操作を試してください。

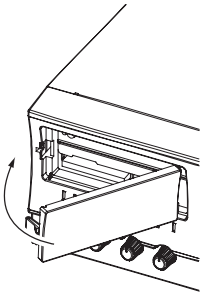
**1** フロントカバーを開けます。



**2** ボールペンなど先が細いもので穴の奥にあるスイッチを押します。



**3** フロントカバーを閉じます。

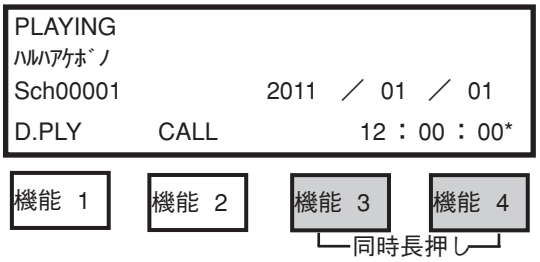


# ■ シャットダウンをするには

**ご注意**

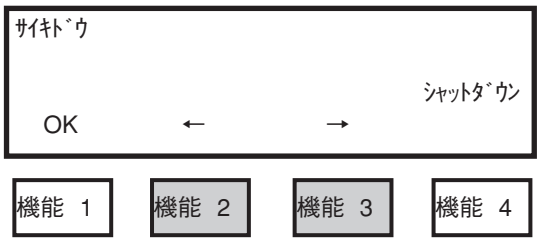
ラックマウントなどに STB を取り付けて、後面の電源スイッチの操作がしづらい場合はシャットダウンしないでください。

***1*** **メイン画面が表示されている状態で、「機能 3」と「機能 4」同時に 2 秒以上押し続けます。（再生中のコンテンツは停止します。）**



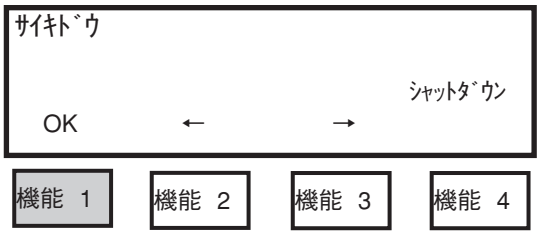

***2*** **「機能 2」（←）、「機能 3」（→）を押して、「シャットダウン」を選択します。**

選択された側が点滅します。




***3*** **［機能 1］（OK）を押して、実行します。**

シャットダウンした場合、電源を入れ直すことで、再度起動できます。

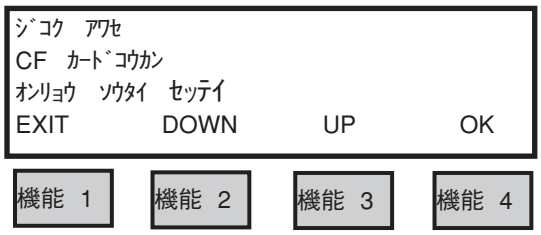


# ■ 時刻を調整するには

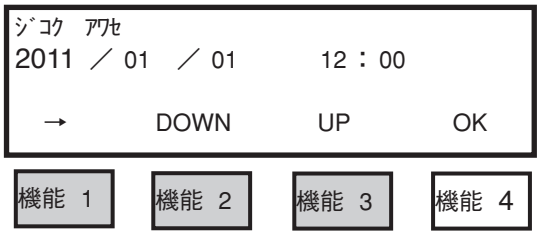
## ● 手動での時刻設定

**1** メイン画面が表示されている状態で、「機能 1」を 2 回（ダイレクトスケジュール設定をしている場合やスタンドアロン設定の場合は 3 回）押します。

**2** メニュー画面が表示されます。「機能 2」（DOWN）、「機能 3」（UP）を押し「ジコクアワセ」を選択し、「機能 4」（OK）を押します。時刻調整をやめる場合は「機能 1」（EXIT）を押します。




**3** 時刻設定画面が表示されます。［機能 1］（→）で変更する項目（年、月、日、時、分）を選択し、［機能 2］（DOWN）と［機能 3］（UP）で変更します。




**4** 数値の変更が完了したら、［機能 4］（OK）を押します。また、時刻の変更を取り消す場合は、「機能 1］（→）で「CANCEL」を選択し、［機能 4］（OK）を押します。

## ● NTP による時刻調整

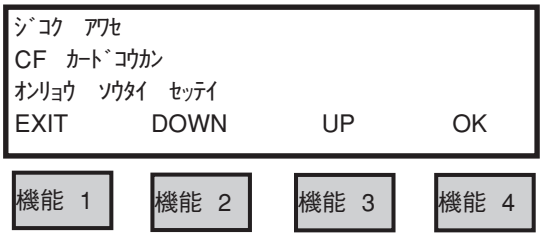
STB は、ネットワーク経由で正しい時刻を確認し、修正を行うことができます。
手順はリクエストチェック（P.26 ）と同様で、以下のとおりです。

メイン画面が表示されている状態で、［機能 2］（CALL）を押します。サーバーに接続し、正しい時刻を確認します。（リクエストのチェックも行います）そして時刻の調整を自動で行います。

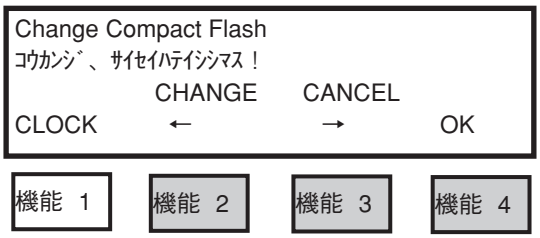
## ■ CF カードを交換するには

**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 1]（D.PLY）を 2 回（ダイレクトスケジュール設定をしている場合やスタンドアロン設定の場合は 3 回）押します。

**2** メニュー画面が表示されます。[機能 2]（DOWN）、[機能 3]（UP）を押して「CF カードコウカン」を選択し、[機能 4]（OK）を押します。CF カードの交換をやめる場合は、[機能 1]（EXIT）を押します。

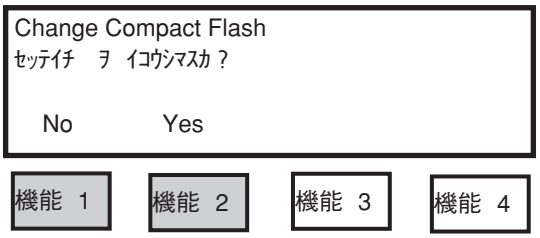



**3** [機能 2]（←）、[機能 3]（→）を押して「CHANGE」を選択し、[機能 4]（OK）を押します。CF カードの交換をやめる場合は、[CANCEL] を選択して [機能 4]（OK）を押します。

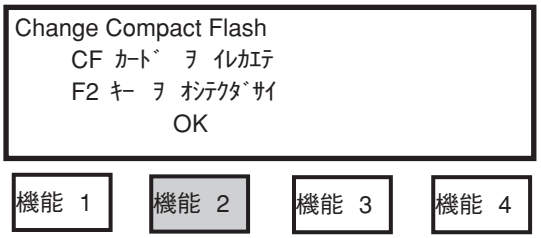



**4** 設定値を引継ぐ場合は [機能 2]（Yes）、引継がない場合は [機能 1]（No）を押します。

※Yes を押した場合の引継ぎ内容については、P.25「● CF カードの設定値の移行」を参照してください。



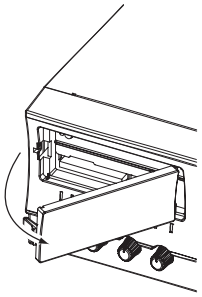

**5** CF カードを交換します。交換ができたら、[機能 2]（OK）を押します。




**6** 自動で再起動します。

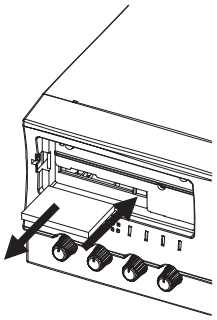
## ● CF カード取出／挿入

**1** フロントカバーを開けます。

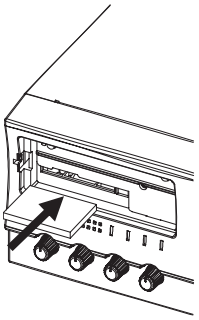


**2** CF カードの右側、黒いボタンを奥まで押します。

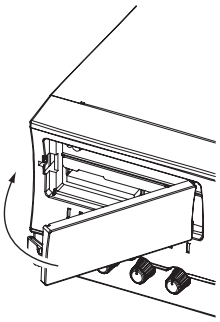
CF カードが外れます。



**3** 交換する CF カードを、TOA ラベルを上にしてまっすぐに奥まで差込みます。



**4** フロントカバーを閉じます。



**ご注意**

- 無理に CF カードを抜かないでください。ボタンを奥まで押せば簡単に外せます。
- 必ずまっすぐに差し込んでください。斜めに力がかかると、CF カードや端子を破損するおそれがあります。
- 必ず奥まで差し込んでください。半差しの状態ではデータを破損するおそれがあります。
- CF カードには STB を運用するためのプログラムが入っています。市販のフォーマットされた CF カードをそのまま使用することはできませんので、ご注意ください。

## ● CF カードの設定値の移行

CF カードの交換時、設定値を引継ぐ設定を行った場合にも、一部再設定が必要になります。
下記を参照してください。

[再設定が必要な設定]
- ダイレクト再生設定 ・・・・・・・・・・・・ 登録されたダイレクト再生設定
- プレーコマンド・・・・・・・・・・・・・・・ 再生予定のプレーコマンド
- スケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・ 運用中または待機中のスケジュール

[再設定の必要がない設定]
その他の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・ フェーダ設定、メールチェック設定など

これらの設定は PC から行います。詳細は運用管理者にご確認ください。

# ■ リクエストチェックをするには

## ● 手動でのリクエストチェック

手動でリクエストチェックを行う場合の手順は NTP による時刻調整の手順（P.22 ）と同様で、以下のとおりです。

**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 2]（CALL）を押します。サーバーに接続し、リクエストのチェックを行います。（時刻の調整も自動で行います）

**2** キーを押した後、画面に「STOP」が表示されている間（約 5 秒間）は［機能 2］を押すことで、リクエスト受信の中断が可能です。「STOP」の表示が消えたあとは、中断できません。

※リクエスト受信時に、「STOP」を常に表示させる設定も可能です。詳細は運用管理者にご確認ください。

**3** 通信がうまくいかなかった場合、リカバリー待機中に「R.CL」が表示されます。この時に［機能 2］を押すと、「STOP」が表示され、再度［機能 2］を押すことで、リクエスト受信の中断ができます。

**4** 画面に「CALL」の表示が戻れば、送受信完了です。新しいスケジュールやプレーコマンドを受信した場合は、自動で再生が始まります。

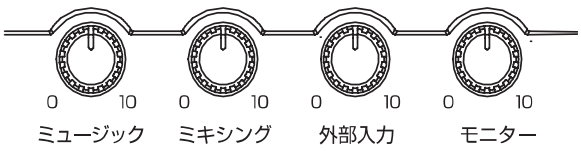
※右記画面では「Sch00002」というスケジュールを受信したことを示します。

## ● 定期リクエストチェック

通常の運用において、STB は自動で定期的にリクエストチェックを行います。
この定期リクエストチェックについては、頻度（毎日、週 1 回、月 1 回）と、おおまかな時間帯の設定が可能です。
なお、この設定は PC から行います。詳細は運用管理者にご確認ください。

# ■ 音量を調節するには

各音量は、STB 前面のボリュームつまみで調節を行います。
すべてのボリュームつまみは、時計回りで音量大、反時計回りで音量小になります。




[ミュージック]
STB が再生する音楽の音量を調節します。

[ミキシング]
フェーダ入力時や、STB の出力と外部入力が混合した場合に、ミキシング対象となる音量の出力割合を調節します。詳細は次ページの「● ミキシング」を参照してください。

[外部入力]
外部入力（CD プレーヤーやチューナーといった外部演奏機器）の音量を調節します。

[モニター]
モニタースピーカーの音量を調節します。ほかのつまみの音量と関係なく調節できます。
なお、モニタースピーカーからは STB が再生する音楽のみが出力されます。

## ● ミキシング

このボリュームつまみで調節する対象は下記項目の条件により異なります。
各条件でのミキシング対象と STB から出力される音声の状態については、次ページ以降の一覧を参照してください。

**[STB の優先設定]**

STB で再生するミュージックと外部入力との優先関係を初期値として設定する項目です。

- 外部入力を優先する……STB を BGM 機、外部機器を CM 機として使用します。
- 外部入力を優先しない……STB を CM 機、外部機器を BGM 機として使用します。

**[スケジュール内での番組毎の優先設定]**

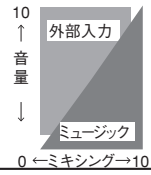
STB で運用するスケジュール内で番組毎に優先関係を再設定できます。

- 外部入力を優先する……ミキシングは「ミュージック」の音量（バランス）を調節します。
  →ミキシングで設定した音量までミュージックの音量が下がります。
- 外部入力を優先しない……ミキシングは「外部入力」の音量（バランス）を調節します。
  →ミキシングで設定した音量まで外部入力の音量が下がります。

[フェーダ入力]
外部機器から信号を送り、ミュージックまたは外部入力にミュートをする機能です。
このフェーダ入力の制御対象も、上記の条件によって変化します。
なお、フェーダ入力端子の接続方法については P.14「■ 制御端子の接続方法」を参照してください。

※ ダイレクト再生、プレーコマンドは、「外部入力を優先しない」の設定に固定されます。
※ それぞれの設定の状況については、運用管理者にご確認ください。

[一覧の見方：例]

| 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|
| ミュージック | ○ | ミキシングの設定 |  |
| 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |

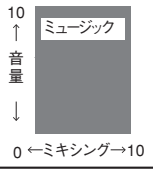
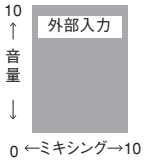
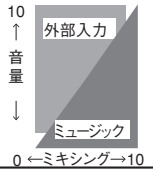


- 「入力」枠に、再生している内容を「○」「×」で示します。
  例では、ミュージック（STB の楽曲コンテンツ）、外部入力が再生されていることを示します。
- 「出力」枠に、出力される内容と対応するつまみ（左側）、再生される内容についての「ミキシング」つまみと音量の関係（右側）を示します。
  例では、外部入力は「外部入力」つまみで設定した音量、ミュージックは「ミキシング」つまみで設定した音量（バランス）で再生されることを示します。

※ スケジュール内での番組毎の優先設定は、ミュージック再生時のみ有効です。
ミュージックの再生がない場合は、STB の優先設定に対応した再生内容となります。

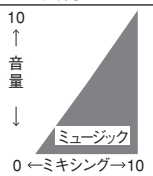
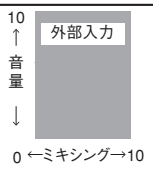
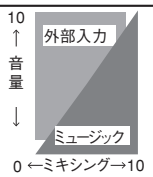
## ● 設定例

［例 1］
STB の優先設定……外部入力優先「する」（STB が BGM 機、外部機器が CM 機としての設定）
スケジュール内での番組毎の優先設定……外部入力優先「する」
フェーダ入力……なし

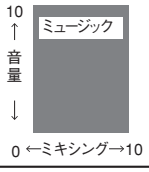
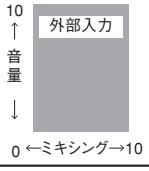
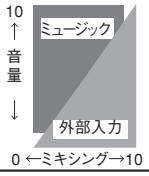
| ケース | 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | × | 入力なし | |
| 2 | ミュージック | × | 入力なし |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |
| 3 | ミュージック | ○ | ミキシングの設定 |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |



［例 2］
STB の優先設定……外部入力優先「する」（STB が BGM 機、外部機器が CM 機としての設定）
スケジュール内での番組毎の優先設定……外部入力優先「する」
フェーダ入力……あり

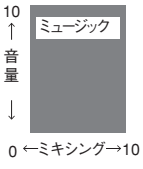
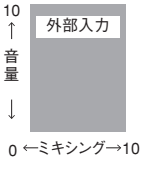
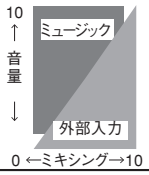
| ケース | 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ミュージック | ○ | ミキシングの設定 |  |
| | 外部入力 | × | 入力なし | |
| 2 | ミュージック | × | 入力なし |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |
| 3 | ミュージック | ○ | ミキシングの設定 |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |

［例 3］
STB の優先設定……外部入力優先「する」（STB が BGM 機、外部機器が CM 機としての設定）
スケジュール内での番組毎の優先設定……外部入力優先「しない」
フェーダ入力……なし

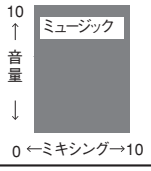
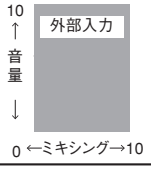
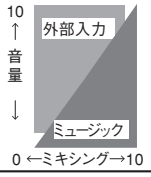
| ケース | 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | × | 入力なし | |
| 2 | ミュージック | × | 入力なし |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |
| 3 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | ○ | ミキシングの設定 | |



［例 4］
STB の優先設定……外部入力優先「する」（STB が BGM 機、外部機器が CM 機としての設定）
スケジュール内での番組毎の優先設定……外部入力優先「しない」
フェーダ入力……あり

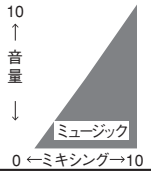
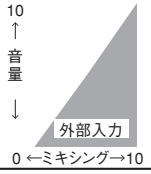
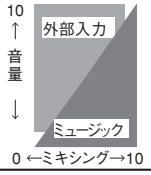
| ケース | 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | × | 入力なし | |
| 2 | ミュージック | × | 入力なし |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |
| 3 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | ○ | ミキシングの設定 | |

［例 5］
STB の優先設定……外部入力優先「しない」（STB が CM 機、外部機器が BGM 機としての設定）
スケジュール内での番組毎の優先設定……外部入力優先「する」
フェーダ入力……なし

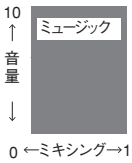
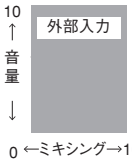
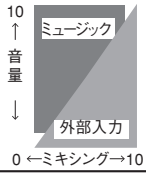
| ケース | 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | × | 入力なし | |
| 2 | ミュージック | × | 入力なし |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |
| 3 | ミュージック | ○ | ミキシングの設定 |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |



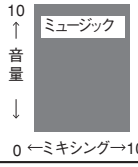
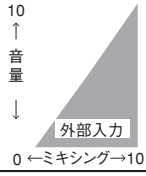
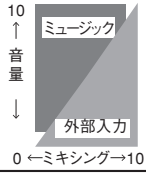
［例 6］
STB の優先設定……外部入力優先「しない」（STB が CM 機、外部機器が BGM 機としての設定）
スケジュール内での番組毎の優先設定……外部入力優先「する」
フェーダ入力……あり

| ケース | 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ミュージック | ○ | ミキシングの設定 |  |
| | 外部入力 | × | 入力なし | |
| 2 | ミュージック | × | 入力なし |  |
| | 外部入力 | ○ | ミキシングの設定 | |
| 3 | ミュージック | ○ | ミキシングの設定 |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |

［例 7］
STB の優先設定……外部入力優先「しない」（STB が CM 機、外部機器が BGM 機としての設定）
スケジュール内での番組毎の優先設定……外部入力優先「しない」
フェーダ入力……なし

| ケース | 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | × | 入力なし | |
| 2 | ミュージック | × | 入力なし |  |
| | 外部入力 | ○ | 外部入力の音量 | |
| 3 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | ○ | ミキシングの設定 | |

［例 8］
STB の優先設定……外部入力優先「しない」（STB が CM 機、外部機器が BGM 機としての設定）
スケジュール内での番組毎の優先設定……外部入力優先「しない」
フェーダ入力……あり

| ケース | 入力 | | | 出力 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | × | 入力なし | |
| 2 | ミュージック | × | 入力なし |  |
| | 外部入力 | ○ | ミキシングの設定 | |
| 3 | ミュージック | ○ | ミュージックの音量 |  |
| | 外部入力 | ○ | ミキシングの設定 | |

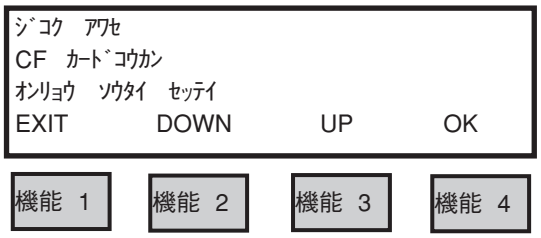
# ■ 音量相対設定をするには

音量相対設定とは、STB の操作によってダイレクト再生、プレーコマンド、スケジュール内の CM、BGM の音量に対して相対的に音量を再設定する機能です。それぞれー 4（ー 12dB）～＋ 4（＋ 12dB）の合計 9 段階の増減設定が可能です。（1 段階は 3dB の増減）
CM と BGM の音量差などの増減はあらかじめスケジュールでも設定されるため、最終的な音量バランスの再調整を音量相対設定で行うことができます。
なお、音量増減の上限は＋ 6dB、下限はー 6dB です。既に設定してある音量に対しての、音量相対設定値による最終的な音量の増減は、下記の表を参考にしてください。

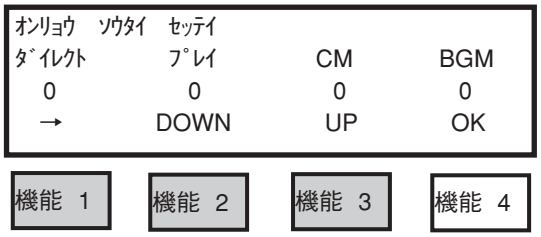
| 事前音量設定値（事前音量増減） | 音量相対設定値と設定後の音量増減 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | －4 | －3 | －2 | －1 | 0 | ＋1 | ＋2 | ＋3 | ＋4 |
| 1（ー 6dB ） | －6dB | －6dB | －6dB | －6dB | －6dB | －3dB | ±0dB | ＋3dB | ＋6dB |
| 2（ー 3dB ） | －6dB | －6dB | －6dB | －6dB | －3dB | ±0dB | ＋3dB | ＋6dB | ＋6dB |
| 3（± 0dB ） | －6dB | －6dB | －6dB | －3dB | ±0dB | ＋3dB | ＋6dB | ＋6dB | ＋6dB |
| 4（＋ 3dB ） | －6dB | －6dB | －3dB | ±0dB | ＋3dB | ＋6dB | ＋6dB | ＋6dB | ＋6dB |
| 5（＋ 6dB ） | －6dB | －3dB | ±0dB | ＋3dB | ＋6dB | ＋6dB | ＋6dB | ＋6dB | ＋6dB |

**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 1]（D.PLY）を 2 回（ダイレクトスケジュールを設定している場合やスタンドアロン設定の場合は 3 回）押します。

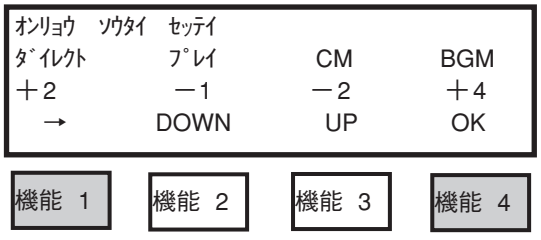
**2** メニュー画面が表示されます。[機能 2]（DOWN）、[機能 3]（UP）を押して「オンリョウ ソウタイ セッテイ」を選択し、[機能 4]（OK）を押します。
設定をやめる場合は、[機能 1]（EXIT）を押します。




**3** [機能 1]（→）を押して、変更する項目を選択し、[機能 2]（DOWN）、[機能 3]（UP）を押して設定します。




**4** [機能 4]（OK）を押して設定を完了します。変更せずに設定をやめる場合は、[機能 1]（→）を押して［CANCEL］を選択し、[機能 4]（OK）を押します。



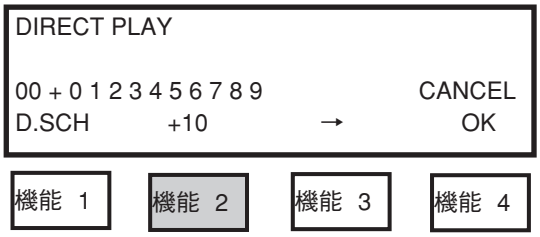

**5** 設定した時点で再生されている楽曲の、次の楽曲から設定が有効になります。

# ■ ダイレクト再生をするには

ダイレクト再生とは、あらかじめ登録しておくことで、スケジュールとは関係なく STB のキー操作で音楽などコンテンツを再生できる機能です。不定期で頻繁にお知らせするメッセージを放送する場合などにこの機能を使用します。
登録できる数は最大 100 件で、0 ～ 99 までの番号に登録します。（デフォルトは 10 件：0 ～ 9 の設定になっています）
登録は PC から設定を行います。登録の手順や詳細については、運用管理者にご確認ください。
以下、再生手順です。

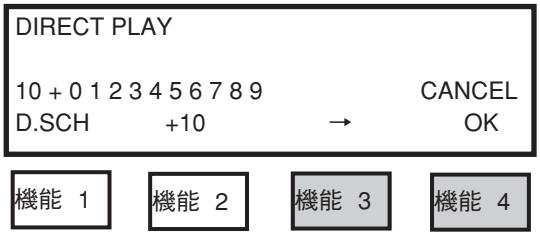
**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 1]（D.PLY）を押します。

**2** あらかじめ登録した番号が表示されます。1 画面に 10 づつの表示になりますので、10 以降の番号に登録したい場合は、[機能 2]（+10）を押してください。




**3** [機能 3]（→）で再生する番号を選択して、[機能 4]（OK）を押します。

※ 登録されていない番号は、画面に表示されません。



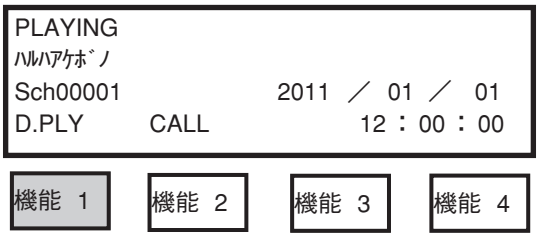

**4** 選択したコンテンツ名が表示され、再生が始まります。

※ 再生を途中で止める場合は、[機能 1]（STOP）を押します。
※ 再生中の BGM や CM は中断（ミュート）します。また、ダイレクト再生が終わると復帰します。
※ CM などの開始予定時間にダイレクト再生が行われている場合、その CM などは再生されません。

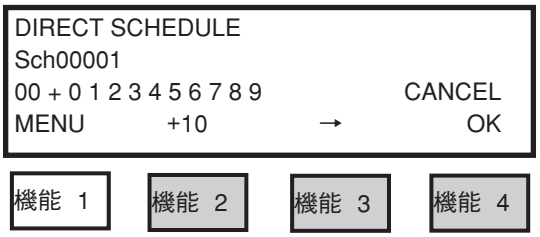
# ■ ダイレクトスケジュール再生をするには

ダイレクトスケジュール再生とは、あらかじめ STB に登録したスケジュールの中で、キー操作によって任意のスケジュールを最優先で再生する機能です。
この機能を使うには前もって設定が必要です。設定手順については運用管理者にご確認ください。
STB に登録できるスケジュールの数は最大 99 件（デフォルトは 10 件の設定）です。

**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 1]（D.PLY）を 2 回押します。
ダイレクトスケジュール画面が表示されます。



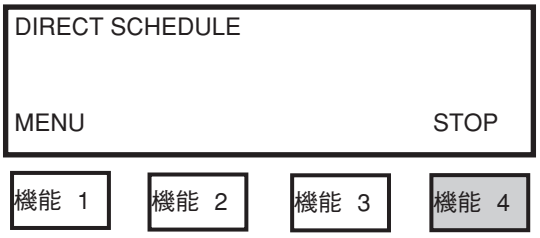

**2** [機能 3]（→）で再生するスケジュールを選択して、[機能 4]（OK）を押して選択します。
10 以上スケジュールがある場合は [機能 2]（+10）を押して表示します。




**3** 選択したスケジュールが表示され、再生が始まります。

**4** ダイレクトスケジュール再生をやめる場合は、メイン画面が表示されている状態で、[機能 1]（D.PLY）を 2 回押します。

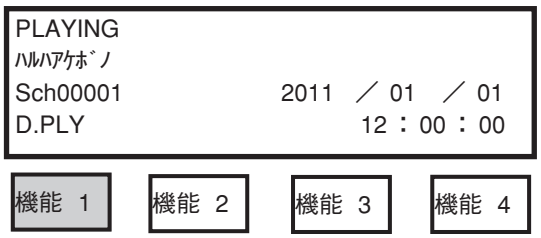
**5** [機能 4]（STOP）を押します。元のスケジュールが再生されます。
※ 再生期間が終了した場合にも、元のスケジュールに戻ります。



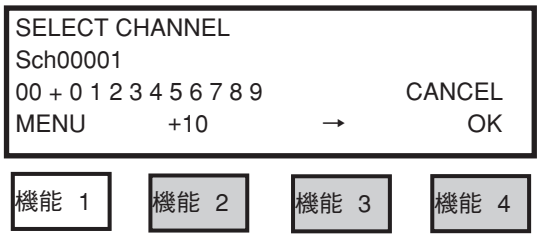
# ■ セレクトチャンネルをするには

セレクトチャンネルとは、スタンドアロン（ネットワーク接続しない）設定の STB で、あらかじめ登録したスケジュールの中から、キー操作によって任意のスケジュールを再生する機能です。
STB に登録できるスケジュールの数は最大 99 件（デフォルトは 10 件の設定）です。

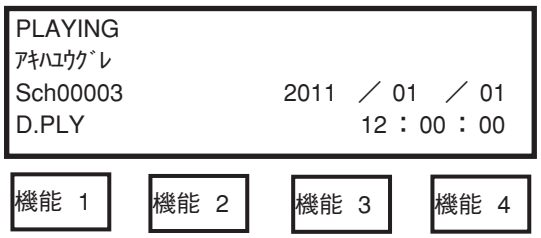
**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 1]（D.PLY）を 2 回押します。
セレクトチャンネル画面が表示されます。




**2** [機能 3]（→）で再生するスケジュールを選択して、[機能 4]（OK）を押して選択します。
10 以上スケジュールが登録されている場合は、[機能 2]（+10）を押して表示します。




**3** 選択したスケジュールが表示され、再生が始まります。
※ 手動でスケジュールを変更するまで、同じスケジュールを再生し続けます。



# ■ エラー発生時の対処方法

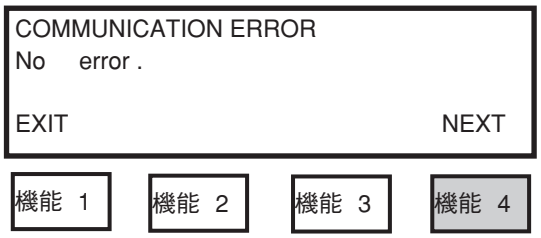
## ● エラー内容の確認

STB 前面のエラーランプの点滅によってエラー発生を知らせます。その際は、以下の手順にてエラー内容の確認を行ってください。

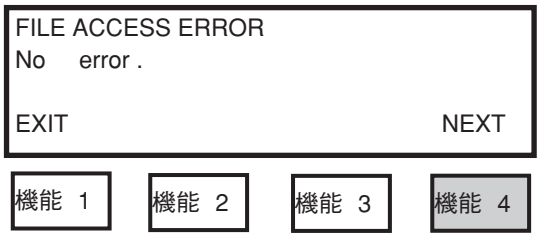
**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 4] を押します。

**2** エラーの内容が通信上の問題* であった場合、この画面に内容が表示されます。「No error」という表示があった場合は [機能 4] (NEXT) を押します。

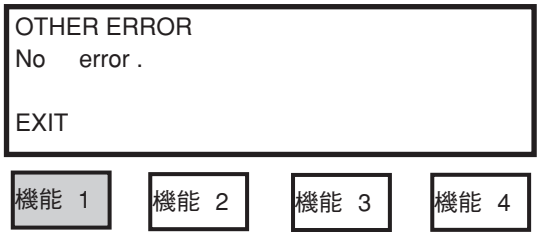
* COMMUNICATION ERROR




**3** エラーの内容がファイル読込関連の問題 (FILE ACCESS ERROR) であった場合、この画面に内容が表示されます。「No error」という表示があった場合は [機能 4] (NEXT) を押します。



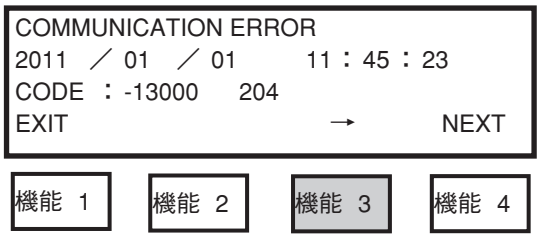

**4** その他のエラー (OTHER ERROR) の場合は、この画面に内容が表示されます。内容を確認したら、[機能 1] (EXIT) を押します。




**5** 表示内容は、発生日、発生時刻、エラーコードです。

※ 最新のエラーが先に表示されます。以前のエラーを見るには [機能 3] (→) を押してください。(エラーは連続して起こることがあるので、最初のエラー発生時刻を確認する必要があります)

※ エラーコードの内容については、P.46「エラーコード一覧表」を参照してください。



## ● 対処方法

［リカバリー（再試行）］
ネットワーク関連の問題の場合、回線コードが抜けていないか、ほかの FAX や電話機が回線を使用していないか、接続を確認したうえで、［機能 2］（CALL）を押してお試しください。

［運用管理者へ連絡］
接続を確認しても問題が解決しない場合などは、運用管理者へお問い合わせください。

その際は、
- STB を設置している店舗名
- 電話番号
- 担当者名
- 発生日時

具体的な症状とエラーコード（P.46「エラーコード一覧表」参照）をお知らせください。

## ■ 設定情報を確認するには

**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 3] を押します。

**2** 設定情報が表示されます。[機能 2]（UP）で上へ、[機能 3]（DOWN）で下へ画面をスクロールします。

※ 表示内容については、下記一覧を参照してください。

**3** 確認を終えたら、[機能 1]（EXIT）を押して元の画面に戻ります。

設定情報の表示内容は以下の通りです。

| | |
|---|---|
| モデル名* | NA-2100 |
| STB の ID | ID：stb002 |
| 通信状態（モデム／PHS、接続時） | Modem(4) ：ｾﾂｿﾞｸﾁｭｳ |
| 通信状態（モデム／PHS、切断時） | Modem(4) ：ｾﾂﾀﾞﾝﾁｭｳ |
| MAC アドレス | MAC：000000-000000 |
| 画面設定 | SCRN：0＊0 |
| AERO バージョン | AERO 3.4X.XX.X |
| H8 ファームウェア | H8 2.4X.XX.X |
| LAUNCH アプリケーション | LAUNCH 3.4X.XX.X |
| NET アプリケーション | NET 3.4X.XX.X |
| MAIN アプリケーション | MAIN 3.4X.XX.X |

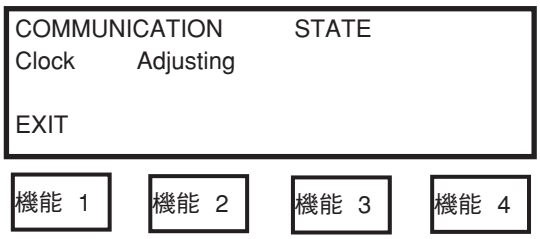
* モデル名は NA-2100 と表示されますが、製品品番 NA-2100B と同一です。

# ■ 通信状態を確認するには

**1** メイン画面が表示されている状態で、[機能 3] を押します。

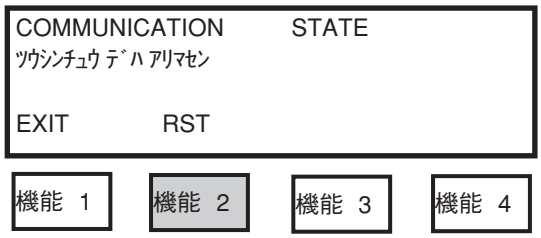
**2** 設定情報確認画面で、[機能 4]（NEXT）を押します。

**3** 現在の通信状態が表示されます。通信時には行っている作業が 2 行目に表示されます。作業の内容については下の表* を参照してください。

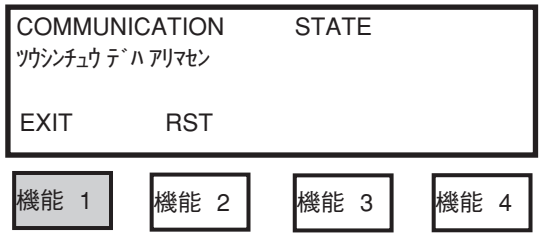



**4** STB が通信していない状態で、[機能 2]（RST）を押すことで、ネットワーク装置のリセットを行います。

※ ネットワークの障害が発生した場合、この操作によって改善する場合があります。それ以外の状態では、リセットを行わないでください。




**5** 確認を終えたら [機能 1]（EXIT）を押して、元の画面に戻ります。



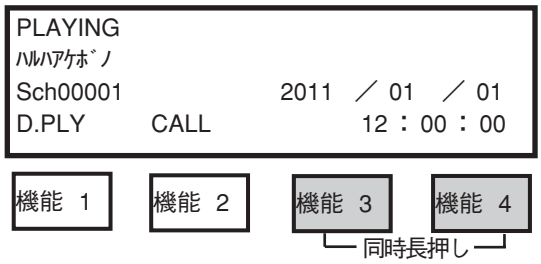

*表示される作業内容は以下の通りです。

| | |
|---|---|
| 通信を行っていない | ﾂｳｼﾝﾁｭｳ ﾃﾞﾊ ｱﾘﾏｾﾝ |
| コマンド（メール）受信中 | Command Receiving |
| レスポンス（メール）送信中 | Response Sending |
| ファイル（FTP）受信中 | File Receiving |
| ファイル（FTP）送信中 | File Sending |
| 時刻取得中（NTP 中） | Clock Adjusting |

# ■ 設定を変更するには

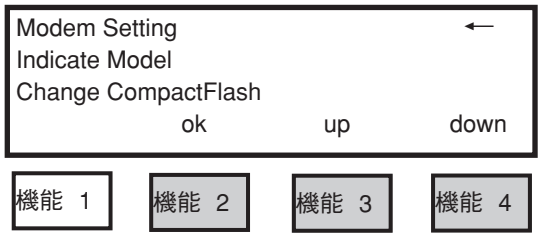
## ● PX コンフィグ・ナビゲーターとの接続

**1** STB を再起動します。メイン画面が表示されている状態で、［機能 3］、［機能 4］を同時に 2 秒以上押し続け、次の画面で「サイキドウ」を選択して、［機能 1］（OK）を押します。




**2** STB の起動とともに［機能 1］、［機能 3］を同時に押し続けます。

**3** 保守画面が表示されます。［機能 3］（up）で上へ、［機能 4］（down）で下へ画面右端の矢印を動かし、「Connect IMS-Config」を選択して［機能 2］（ok）を押します。

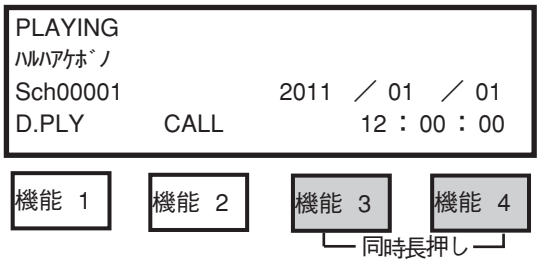



**4** 表示が「Preparing・・・」から「Ready to Connect ！」に変わったことを確認し、PX コンフィグ・ナビゲーターと接続を行います。

※設定変更の操作手順や詳細につきましては、運用管理者にご確認ください。

## ● STB での設定変更

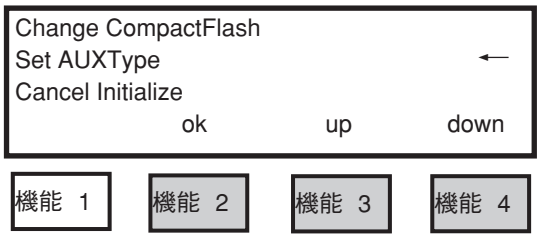
**1** STB を再起動します。メイン画面が表示されている状態で、[機能 3]、[機能 4] を同時に 2 秒以上押し続け、次の画面で「サイキドウ」を選択して、[機能 1]（OK）を押します。



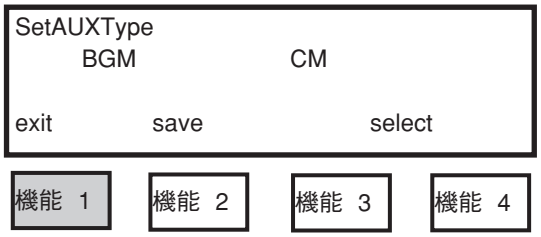

**2** STB の起動とともに［機能 1]、[機能 3] を同時に押し続けます。

**3** 保守画面が表示されます。[機能 3]（up）で上へ、[機能 4]（down）で下へ画面右端の矢印を動かし、設定する項目を選択して[機能 2]（ok）を押します。

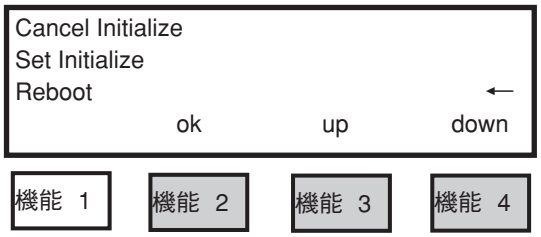
※項目の内容については、次ページの「[保守画面での設定項目一覧]」を参照してください。



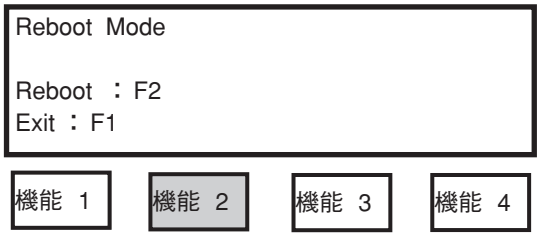

**4** 各項目にて設定が完了したら、[機能 1]（exit）を押して、保守画面に戻ります。




**5** 保守画面から通常の運用に戻るには、[機能 3]（up）で上へ、[機能 4]（down）で下へ画面右端の矢印を動かし、「Reboot」を選択して［機能 2]（ok）を押します。




**6** [機能 2] を押して､再起動します。起動後、通常の運用に戻ります。



［保守画面での設定項目一覧］

| STB 表示 | 設定項目 | 設定内容 |
|---|---|---|
| Modem Setting | モデムの設定 | トーン信号の場合は［Tone］を、パルス信号の場合は［10pps］または［20pps］を選択<br>トーン検出をする場合は［ON］を、しない場合は［OFF］を選択 |
| Indicate Model | 機種モデルの設定 | 機種モデル名の表示 |
| Change CompactFlash | CF カードの交換 | CF カードを交換する場合に選択<br>※手順などについては P.23「■ CF カードを交換するには」以降を参照 |
| Set AUX Type | AUX タイプの設定 | STB に接続する外部機器が BGM 機器の場合は［BGM］を、CM 機器の場合は［CM］を選択<br>接続しない場合は［BGM］を選択 |
| Cancel Initialize | 初期設定の無効化 | 初期設定を解除し、工場出荷時の状態に設定 |
| Set Initialize | 初期設定 | 初期設定済みの状態に設定 |
| Reboot | リブート | STB の再起動 |

# 故障かな？と思ったら

## ■ STB の動作に問題があった場合…

考えられる原因とその対処方法を説明しています。故障かなと思ったら、以下のトラブル対処法を参考に確認をします。

［STB に関するトラブル］

| 症状 | 調べるところ | 処置 |
|---|---|---|
| 電源が入らない | AC アダプターと電源コードは差込まれていますか？<br>STB 側とコンセント側と両方を確認してください。 | 電源コードを確実に差込みます。 |
| | 電源スイッチは「入」側に倒れていますか？ | 電源スイッチを「入」側に倒します。 |
| | コンセントに電気が来ていますか？ | 電気が来ているコンセントを使用します。 |
| | 通電していない延長コードを使用していませんか？ | 通電に問題のない延長コードを使用します。 |

［音に関するトラブル］

| 症状 | 調べるところ | 処置 |
|---|---|---|
| スピーカーから音が出ない | ラインケーブルが抜けていませんか？ | 正しく接続します。 |
| | 外部アンプを使用している場合、アンプの操作を間違えていませんか？ | アンプを正しく操作します。 |
| | フェーダ入力端子を使用している場合、信号が送られ続けていませんか？ | フェーダ入力端子を正しく制御します。 |
| 雑音が入る／音が歪む | ラインケーブルが抜けかかっていませんか？ | 正しく接続します。 |
| | テレビや無線機などからノイズが出ていませんか？ | ノイズの発生源から離します。 |
| | 特殊な電話回線に接続していませんか？ | アナログ回線または ISDN 回線に接続します。 |
| 外部の曲と混ざってしまう | ミキシングボリュームの設定が最小（最大）になっていませんか？ | ミキシングボリュームを調節します。 |

［ネットワークに関するトラブル］

| 症状 | 調べるところ | 処置 |
|---|---|---|
| リクエストチェックができない | 電話回線は正しく接続していますか？ | 正しく接続します。 |
| | 電話回線の種別（ダイヤル式、トーン式）を間違えていませんか？ | 正しい設定に変更します。詳細は運用管理者へお問い合わせください。 |
| | 0 発信のあり／なしを間違えていませんか？ | 正しい設定に変更します。詳細は運用管理者へお問い合わせください。 |
| | 特殊な電話回線に接続していませんか？ | アナログ回線または ISDN 回線に接続します。 |
| | 夜間装置の電源や、電話回線を接続している機器（ISDN ルーターなど）の電源が切られていませんか？<br>夜間に店舗のブレーカーを落としていませんか？ | 電源を常時接続してください。 |
| | ネットワーク機器は正常に動作していますか？ | 各ネットワーク機器を確認します。<br>ネットワーク管理者に確認してください。 |

[ 時刻に関するトラブル]

| 症状 | 調べるところ | 処置 |
|---|---|---|
| 指定された時刻に演奏されない | 正しい時刻になっていますか？ | 正しい時刻に合わせます。 |
| | スケジュールの内容を確認します。 | スケジュールの内容を修正します。スケジュール製作会社にお問い合わせください。 |
| 表示時刻がずれている | 本製品は 24 時間通電が必要です。設置後 24 時間電源を入れていない場合に､表示時刻がずれることがあります。 | 電源を常時接続してください。ネットワークに接続している場合は、[機能 2]（CALL）を押して通信することで正確な時刻に補正されます。 |

# ■ STB が通信できないときは…

新規にＳＴＢを設置したとき通信ができない原因として、ＳＴＢの設定が間違っている場合や回線の種類に起因することが挙げられます。発生した事例の中で多いものを以下に記述します。まずは下記の事項の確認をお願いします。

## ●「0035 ー 05 ー 0505」に電話がかかりますか？

ＳＴＢはプラスネットのアクセスポイント「0035 ー 05 ー 0505」に電話をかけインターネットに接続します。お客様の回線から「0035 ー 05 ー 0505」に電話をかけＦＡＸの通信音（ピーガーという音）が聞こえればＳＴＢは運用できます。電話が切れてしまう場合や、「この番号にはお繋ぎできません。」と言うコメントが再生される場合はＳＴＢの運用はできません。ＳＴＢを接続した場合は「ー 11012」「ー 11015」エラーが発生します。

◆ＳＴＢが運用できない回線
1. 光電話・ＩＰ電話
→「ー 11012」エラーなど
　プロバイダー変更により光電話回線で運用可能な場合があります。

2. 直収電話サービス回線（ＫＤＤＩ社「メタルプラス」）
→「ー 11012」エラーなど
　プロバイダー変更により運用可能な場合があります。

3. 公衆電話回線
→課金パルスにより極性が反転し通信が切れてしまいます。

4.「00」で始まる電話番号が発信拒否設定されている内線電話
→「ー 11015」エラーなど

## ● 回線種別（トーン・パルス）の設定は正しいですか？

回線種別が間違っていると電話をかけることができません。「0035 ー 05 ー 0505」に電話をかけるとき「ピッポッパッ」と音がして接続できる場合には「トーン」回線です。また、電話をかけるとき「プツプツプツ」と小さな音がして接続できる場合には「パルス」回線です。再度ＳＴＢのモデム設定を確認してください。この場合ＳＴＢでは「ー 11012」や「ー 11015」エラーが発生します。

## ● 電話番号は間違っていませんか？

プラスネットは「0035 ー 05 ー 0505」に電話をかけインターネットに接続します。この番号が間違っている場合には通信ができません。また、内線電話から外線に接続する ボタン（0 発信など）が決められている場合にはアクセスポイントの電話番号の前に記述します。(0 発信なら「0,（ゼロコンマ)」を挿入し「0，0035 ー 05 ー 0505」に設定）再度、確認をお願いします。この場合には「ー 11012」エラーが発生します。

### ● ISP へ接続するユーザー名・パスワードは間違っていませんか？

この設定が間違っている場合にも通信ができません。再度、確認をお願いします。この場合には「ー 11009」エラーが発生します。

### ● メール設定（アドレス・パスワード）は間違っていませんか？

この設定が間違っている場合には時刻修正までは可能ですがメールの受信ができません。再度、確認をお願いします。メール送信のサービスポートが違う場合には「ー 13001」エラー、メールアドレス・パスワードが違う場合には「ー 13100」エラーが発生します。再度、確認をお願いします。

### ● 回線に接続された他の電話機器が通信していませんか？

回線に接続されたＳＴＢ以外の電話機器（ＦＡＸ・発注端末）が通信中には、ＳＴＢは通信できません。「ー 11004」エラーが発生します。ＳＴＢ以外の電話機器（ＦＡＸ・発注端末）の通信が終了してから、確認をお願いします。

### ● それでも通信ができない場合には？

それでも通信できない場合には、運用管理者へお問い合わせください。
「ー 11005」エラーが発生する場合には、大変申し訳ありませんがＳＴＢの不具合の可能性が考えられます。

## エラーコード一覧表

| エラーコード | エラー名称 | 内容と対応 |
|---|---|---|
| ー 11002 | モデム発呼失敗 | 他の電話機、FAX などが回線を使用している場合があります。回線使用状況を確認し、[機能 2]（CALL）を押してください。 |
| ー 11003 | 着信中 | |
| ー 11004 | （回線）使用中 | |
| ー 11005 | モデム初期化失敗（AT コマンドフェーズエラー） | 電話回線が切れている場合があります。回線状況を確認し、[機能 2]（CALL）を押してください。 |
| ー 11006 | ダイヤル応答タイムアウト | |
| ー 11007 | ISP との接続タイムアウト | |
| ー 11008 | （モデムから）不正なレスポンス受信 | |
| ー 11009 | ダイヤルアップ接続　通信エラー | |
| ー 11010 | ネットワーク層の初期化に失敗 | |
| ー 11012 | キャリア検出失敗 | 電話回線が切れている／発信先が応答しない／アクセスポイント番号が間違っている／トーンまたはパルス設定が間違っている可能性があります。設定と回線状況を確認し［機能 2］（CALL）を押してください。 |
| ー 11015 | 話中音検出 | 相手先が話中／プッシュ回線にパルス信号で発信した可能性があります。設定と回線状況を確認し［機能 2］（CALL）を押してください。 |

| エラーコード | エラー名称 | 内容と対応 |
|---|---|---|
| ー 11019 | ダイヤルアップ接続　認証エラー | プロバイダー接続の認証設定が間違っています。設定を確認し［機能 2］（CALL）を押してください。 |
| ー 12000 | FTP サーバー接続がタイムアウトした | サーバーとの接続エラーです。時間をおいて、[機能 2]（CALL）を押してください。 |
| ー 13000 | POP3 サーバー接続がタイムアウトした | |
| ー 13001 | SMTP サーバー接続がタイムアウトした | |
| ー 13200 | メール受信タイムアウト | |
| ー 13202 | メール送信タイムアウト | |
| ー 14100 | UDP 送信エラー | |
| ー 14101 | UDP 受信エラー | |
| ー 14102 | NTP サーバー応答タイムアウト | |
| ー 12100 | FTP サーバーユーザー認証が失敗した | 認証設定を確認し、［機能 2］（CALL）を押してください。 |
| ー 13100 | POP3 サーバーユーザー認証が失敗した | |
| ー 13209 | メール削除に失敗した（メール自体は受信成功） | メールを受信しましたがサーバーからの削除に失敗しました。回線状況を確認してください。 |
| ー 13400 | ディスク容量が足りず、メールの内容を保存できない | ディスク容量が不足しています。運用管理者へお問い合わせください。 |
| ー 20303 | ディスク容量が不足している | |
| ー 20221 | 音声が出力されていない | 内部音源が正しく出力されていないため本装置を再起動しました。まだ正しく出力されていない場合はお手数ですが運用管理者へお問い合わせください。 |
| ー 20222 | 電源オンのとき RTC がホールド状態であった | 時計がずれている可能性があります。正確な時刻に補正してください。 |
| ー 20503 | ルーターが見つからない | ルーター（デフォルトゲートウェイ）と通信ができません。ルーターが正常に動作しているか確認してください。 |
| ー 21105 | コンテンツファイルが存在しない | 再生するコンテンツが本装置内に存在しません。運用管理者へお問い合わせください。 |

再確認しても同じエラーが出る場合や、上記にないエラーが出た場合は、お手数ですが運用管理者へお問い合わせいただけますようお願いします。

# サンプル BGM の再生

STB 付属の CF カードには、BGM のサンプル音源が 8 ジャンル、各 10 曲ずつ収録されており、ダイレクト再生機能により、再生・停止を行うことができます。

## ● 音源について

各ジャンルごとに「ジャンル名 _01」～「ジャンル名 _10」で収録されています。
再生開始操作から停止操作まで、選択されたジャンルをリピートで再生し続けます。
曲数を指定した再生や、ジャンル内シャッフル、ジャンルをまたいだ再生はできませんのであらかじめご了承ください。

## ● 操作について

ダイレクト再生機能により使用することができます。
ダイレクト再生の方法については、P.34「■ ダイレクト再生をするには」を参照してください。
ダイレクト再生は 8 件：1 ～ 8 の設定になっています。

[音源リスト]

| 音楽ジャンル | 音源 |
|---|---|
| 1　アコースティック | アコースティック _01 ～アコースティック _10 |
| 2　アンビエント | アンビエント _01 ～アンビエント _10 |
| 3　カフェラウンジ | カフェラウンジ _01 ～カフェラウンジ _10 |
| 4　イージーリスニング | イージーリスニング _01 ～イージーリスニング _10 |
| 5　フュージョン | フュージョン _01 ～フュージョン _10 |
| 6　ジャパネスク | ジャパネスク _01 ～ジャパネスク _10 |
| 7　ジャズ | ジャズ _01 ～ジャズ _10 |
| 8　ポップス | ポップス _01 ～ポップス _10 |

ご注意

サンプル音源は、STB で再生することのみ許諾されております。
サンプル音源の複製及び二次利用はお断りいたします。

※ ネットワークに接続しない場合は P.11「[DIP スイッチの設定と機能一覧]」を参照しスタンドアロン型の設定でご使用ください。

※ 設定を変更する場合は P.41「■ 設定を変更するには」を参照してください。

# 仕　様

| | |
|---|---|
| 電　　源 | AC100 V、50/60 Hz（付属の AC アダプター使用） |
| 消　費　電　力 | 30 W |
| 周　波　数　特　性 | 50 Hz ～ 18 kHz、–1 dB ± 3 dB |
| S　　N　　比 | 73 dB 以上（JIS-A） |
| 歪　　率 | 0.5 % 以下 |
| セ パ レ ー シ ョ ン | 70 dB 以上（1 kHz B.P.F） |
| 出　力　回　路 | ライン出力（L、R）: +4 dB *、600 Ω、不平衡、RCA ピンジャック |
| 入　力　回　路 | 外部入力（L、R）: 0 dB *、10 k Ω、不平衡、RCA ピンジャック<br>入力検知 : –30 dB *以上 |
| 制　御　入　力 | フェーダ入力、入力 1:　無電圧メイク接点、開放電圧 : DC5 V、短絡電流 : 0.6 mA 以下、M3 ねじ端子、バリアー間隔 5.4 mm<br>入力 1 はスタンドアロン設定時に有効、外部から制御が可能 |
| 制　御　出　力 | 動作中出力、出力 1、2、3:　オープンコレクター、耐電圧 : DC25 V、許容電流 : 30 mA 以下、M3 ねじ端子、バリアー間隔 5.4 mm<br>出力 1、2、3 は設定により出力タイミングの変更が可能 |
| モデムインターフェース | 受信 56 kbps、送信 33.6 kbps、V.90 対応、RJ11 モジュラージャック<br>JATE 認証済、認定番号 : A04-0574001 |
| 時　計　精　度 | 月差± 30 秒以内（20℃） |
| 停 電 補 償 時 間 | 満充電後 60 日間（二次電池使用） |
| 時　刻　調　整 | ネットワーク型運用時 : NTP サーバー、スタンドアロン型運用時 : 手動 |
| 使 用 温 度 範 囲 | 0 ～ +40℃ |
| 使 用 湿 度 範 囲 | 20 ～ 80%RH（ただし結露のないこと） |
| そ　の　他 | LCD 表示、モニタースピーカー |
| 仕　上　げ | パネル : ABS 樹脂 黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶、塗装<br>ケース : プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色） |
| 寸　　法 | 210（幅）× 98（高さ）× 294（奥行き）mm |
| 質　　量 | 2.1 kg |

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

## ● 付属品

AC アダプター ..... 1
電源コード ..... 1
回線コード（3 m）..... 1
CF カード ..... 1
コード抜け止め ..... 2
結束タイ ..... 2
M3 ねじ（コード抜け止め取り付け用）..... 2

TOA

TOA お客様相談センター

商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。
受付時間 9：00 ～ 17：00（土日、祝日除く）

フリーダイヤル **0120-108-117**
ナビダイヤル 0570-064-475（有料）
FAX 0570-017-108（有料）
※ PHS、IP 電話からはつながりません。

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOA ホームページ　http://www.toa.co.jp/

NA2100B-002